

教員採用合格者の経験を聞く

—「2013年度および2014年度教員採用試験合格者の体験を聞く会」の記録—

(1)市ヶ谷：2013年2月20日実施

自分の教員への気持ちをしっかり持つ

文学部日本文学科4年 H・I

2013年度教員採用試験で、私は千葉県の国語の中学校教諭に合格しました。今回その試験について、3点話をさせていただきます。

はじめに試験へ向けての勉強についてですが、本腰を入れ始めたのは大学3年の12月頃からで、それまでは移動時間などで軽く参考書を見る程度でした。専門教養の難易度は法政などの私大の入試とあまり変わらなかったのも、各県ごとの専門の参考書にプラスして、大学受験の時に使った参考書を用いていました。そして2月頃から教職教養の勉強を始めました。私は参考書を眺めて覚えられないタイプではないので、まず問題を解いて、わからなかったところや間違えたところを参考書で確認し、覚えていくやり方で進めました。結果として専門教養では問題集3冊、参考書、過去問（東京と千葉）を用いました。過去問の傾向から、そこまでコアな問題は出ないとみていたので、細かいところまでは追わず、大まかな流れなどの重要単元中心に暗記していきました。そして4月から過去問をはじめ、5月下旬から6月は教育実習や準備などでほぼ全く勉強をすることはできず、そのまま試験を迎えました。結果から言うと教養は比較的簡単なものが出題されるので、ある程度の知識を詰めたら専門の勉強を中心にした方がいいと思います。また一般教養は過去問を解く程度でしたが、常識問題なのでそのくらいで十分でした。

そして7月の採用試験についてですが、千

葉県では2013年度から一次でも面接を行うようになりました。つまり一次試験では筆記（専門・教養）・集団面接、二次では模擬授業、個人面接、適性検査でした。一次の集団面接は教官2名に対し受験生5名で、30分程度です。質問は6,7問で端から答えていく形式でした。とりたてて難しいことは聞かれないので、自分の教員への気持ちをしっかり持っていれば問題ありません。

二次の模擬授業では、教室の後方に試験官2名、受験生12名で、自分以外の受験生を設定した学年の生徒に見立てて授業をするという方式でした。題は道德の授業で扱うようなものばかりでした。ここでの注意点はできるだけ生徒に話しかける（発言する機会を与える）、生徒たちの眼を見て話すことです。特別な対策をせずとも教育実習で行っていたことを思い出せば問題ありません。

個人面談は教官3名で、端の教官から順に自分個人について、千葉県について、実際教師になった際の心構えや困ったときの対処法などを質問されました。ここでの準備も自己PRだけはしっかりとと言えるようにし、千葉について少し調べていったくらいです。結構強い口調で質問される方もいるので、負けない心が一番重要かと思います。これらのように試験自体はとりたてて特別な能力が必要とか、これができなければダメということはないので、ありのままの自分をリラックスしてアピールできるよう、緊張しすぎず頑張ってください。

最後に民間への就活についてですが、私は塾業界の1社だけ受けました。結果として自己PRなどはほぼ同じことを言えましたし、その会社では面接時に模擬授業も取り入れて

あったので、とてもためになりました。どれほどの企業を受けるのかは個人的な考えによると思いますが、興味を持てる会社ではない限り受ける必要はないかと思います。やはり当然のことながらそれなりの時間や体力は使うので、数社ならともかく、勉強と並行しながらほかの就活生と同じようにやるのは難しいのではないかと思います。私としては今年落ちて来年、再来年と塾のバイトをしながら受け続けるつもりだったので、1社に絞りましたが、勉強の妨げになることもなく、とてもいい経験になったと思います。皆さんが教師になりたいという強い気持ちがあり、今まで頑張ってきたのであれば、横道にそれることなくそのまま頑張りたいと思います。(拍手)

試験問題を憶えてしまうくらい解く

キャリアデザイン学部4年 T・K

こんにちは。私は2013年度の東京都の教員採用試験を中高社会科で受験し、合格をいただきました。今日は私がどのように教採まで準備してきたか、何を考えてやっていたかをお話したいと思います。

私は9月下旬から東京アカデミー(予備校)に通い、教員採用試験講座の現役平日夜間コースを受講し始めました。最初は教育法規や教育原理、教育心理、教育史などの教職教養と呼ばれるものを中心に勉強を始めました。12月頃からは専門教科の講座を受講し、2月頃からは面接講座を受講しました。予備校では、平日は教職教養、土曜日は専門科目、日曜日は面接対策を行いました。予備校以外では主に学校の図書館で勉強しました。9時～22時頃まで図書館に入り浸っていました。

使っていたテキストは東京アカデミーのものと東京都の過去問題集を使いました。また、論文や面接対策については先輩からアドバイスをいただいたりしながら準備をしました。

教職教養と専門教養の勉強についてはひたすら問題を解き、間違えたところや少しでもわからなかったところをノートにまとめるようにしていました。これを繰り返していると苦手なところ分かるし、自分だけのテキストが出来上がります。実際、私は試験会場にこのノートを持っていけば大丈夫だ、と感じました。

また、過去問についてですが、私は講師の方々に「試験問題を憶えてしまうくらい解け」と、ご指導いただきました。過去何年分も解いていましたが、それらを問題の順番や問題文を憶えてしまうくらいのものでたくさん解きました。そうすると問題の傾向も分かりますし、勉強と過去問分析の両方を自然とやっていたのだと思います。

教職教養、専門教養も大事ですが、私はそれらと同じかそれ以上に論文にも比重を置き、時間もかけました。なぜなら東京都は点数が高くても論文の善し悪しで合否が分かると聞いていたからです。

私は過去のテーマを参考に何度も書きました。そして書くごとにゼミの先生に添削をしてもらい、書き直すという作業を繰り返しました。週に1,2枚は提出用を書くように習慣づけていました。論文を書くことは一次試験のためですが、二次試験のためにもなります。教育問題について自分の考えを社会背景と関連付けて考え、具体的にどのように教師として働きかけるのかを考え、まとめることは二次試験の面接の準備にも生かされていたと思います。また、過去のテーマ10年分を見てみて、どのようなテーマが出ているのかを考察したり、自分なりに予測して論文を書いてみたりもしました。今思うことは論文は書いた分だけ良くなるし、書くことに慣れていきます。最初は手を付けにくいところだと思いますが、まずは人の論文を読んでみるなどのでいいので論文に触れておくことがお勧めです。

面接対策については、東京都は個人面接と集団討論がメインで特に集団討論の比重が大

きいということだったので、集団討論の練習を大事にしました。予備校では多くの人と何度も、さまざまなテーマで討論の練習を繰り返しました。ここで良かったことは、新しい考え方を発見することができたことです。予備校には学生や社会人、講師、現役教師の方などがいたので、私にとって皆さんの意見や考えを吸収し、勉強する場でもありました。

最後に、私は東京都の中高社会科の受験を考えた際に一番に合格率を気にしました。倍率にばかり目がいて不安になることもありました。皆さんもそうだと思います。実際予備校で親しくなった知人で絶対受かると思っていた方が不合格と先日聞きました。それくらい難しく、狭き門であるとも思います。東京都の説明会などに行くと同じ目標を持った方々が沢山います。そのなかで合格を掴むことは楽ではありません。私は、色々な方に「学生です」と言う「2 カ年計画？」とよく言われましたが、私はそんなつもりは一切ありませんでした。今年が勝負だと強く思っていました。私は落ちた時のことをあまり考えず受かることだけ考えてやってきました。落ちたらその時考えようと思っていたのかもしれませんが（笑）。

これから、不安がいっぱいで、楽な道のではないと思いますが、皆さんには明確な目標と覚悟をもって試験に臨んでもらいたいと思います。

そして、2 年後に同じ教育現場で皆さんと一緒に仕事ができることを願っています。それまで私も頑張っていきます！お互い頑張りましょう！（拍手）

(2) 市ヶ谷：2014 年 2 月 20 日実施

模擬授業では自分のカラーを見つける 文学部日本文学科 4 年 K・M

「教師になることだけを目標にしている人、

満足している人は教壇に立つ資格はないと思っています」

今、一心に教師になることを目指している人にとって、少し衝撃を受けた方もいるかもしれません。これは、私が教師になるための就職活動中に出会った方の言葉です。つまり、教師になるのなら自分の教育観を持ち、教育によって何をしたいのかを考え、実行しなくてはならないということだと私は捉えています。

教員採用試験に向けて勉強している時、考えていたことがありました。私は「教育を変えていきたい」という理想をもっています。小学生の頃から、「知らないことを知る」ことができる勉強が好きで、もちろん不得意なものもありましたが、教科に関係なく学ぶことに興味がありました。しかし、そんな私でも「この授業（勉強）は面白くない」と思い、「絶対もっと面白く学べるはずだ」と思うことがありました。授業が面白くないのは、教師の問題もあるかもしれませんが、もしかしたら何か教育制度・教師のおかれた環境によって、授業を面白くすることが難しいのではないか。大学で教育の実態について学ぶ中で、そのように思いました。全ての子どもたちに「学ぶ楽しさ」を知ってもらえるような教育ができるようにしたい。「教師になる」夢が「教育改革」の夢に発展しました。

そのためにどのような道を進まなければならないのか、ノートに書きました。十数年教師のキャリアを積み、県内の教育制度に携わる指導主事になれること、結婚や育児など休職している時、自分は教育に関わる活動で何をするか、興味のある中央教育審議会や文科省などの教育機関のこと、何十代までに叶えたいかなど計画をたてていました。また、介護等体験を終えた今では、特別支援学校の教師になることも目標の 1 つになっています。教育改革にかかわるために、多くの学校の実態を知りたくて、公立学校だけでなく私立学

校でも何校か働きたいとも考えていました。実現できるか分からないような夢ですが、その夢を考えることで、自分の「教師になりたい」という気持ちに、自信を持たないように思います。

「子どもたちに学ぶ楽しさを知ってもらいたい」という気持ちを持って、教材の工夫や授業の雰囲気作り（話し方・表情）を意識して模擬授業に取り組みました。模擬授業は、これだけは誰にも負けないと思える自分のカラーを見つけられると、堂々とした授業になると思います。私の場合は、笑顔を絶やさず、まずは自分が楽しんで行いました。以上のような気持ちで取り組んだおかげで、教員採用試験（特に二次試験）を突破できたのではないかと思います。ただ「教師になりたい」だけではいけなくて、「なぜ教師になりたいのか」「どのような教育をしていきたいのか」という自分の教育観をしっかりとと言えることが求められているのだと実感しました。最初の言葉の通りなのかもしれません。

最後に、私が教員採用試験の二次試験の日に、自分を励ました言葉を紹介します。マザー・テレサの「大切なのは、どれだけ沢山のことをしたかではなく、どれだけ心をこめたかです」という言葉です。面接官が本当に見ているのは、受験者がどれだけ大学で活動していたか、過去問を解いてきたか、面接の練習をしてきたかではないと思います。どれだけ教育に対する熱意があるのか、生徒のために力を尽くしてくるのかという「誠心(精神)」を見ているのだと、私は考えています。自分の気持ちを強く熱く正直にぶつけてください。

教師になる夢を諦めなければ、時間がかかったとしても、きっと叶うと思います。教師を目指す過程での人との出会いは、とても貴重です。お互いを高め合って、支え合って、頑張ってください！（拍手）

教員採用試験を受けるにあたって、どのように準備をすればよいのか

文学部日本文学科 4年 A・T

はじめに

「教員採用試験を受けるにあたって、どのように準備をすればよいのか」について、自分の体験をお伝えしたいと思います。私は、体育会のバスケットボール部に所属しており、週6日の練習を続けながら採用試験に臨みました。試験の直前になっても、試験だけに集中することができません。そういった限られた時間の中でどのように準備をすすめていったのか、お伝えします。

1. 受験する自治体についてよく調べる

何かの対策を立てるには、相手をよく知ることが大切です。教員採用試験ならば、受験する自治体や過去問をよく分析してみてください。私は、川崎市と大阪市の2つの都市で受験しました。第一希望だけの対策をし、そこで身に付けたもので、第二希望の受験に臨みました。結果は両方から内定を頂けたので、本命だけでも十分に調べて分析してみてください。

過去問を分析してわかることは何か、について考えてみます。教育委員会のHPや昨年度の採用案内などを見ると、試験の内容や配点、合格基準点が記載されています。そこでの配点が高いものほど、その自治体が求める教師像に近いのだと考えられると思います。例えば、一次試験の筆記の合格基準が低く、二次試験にその点数が反映されない、面接の配点が高い、などの情報が得られたならば、その自治体では「人物重視」の選考が行われていると考えられます。

2. 予定をたてる

私が採用試験に向けて勉強を始めたのは、3年生の春からでした。教職課程センターへ相談に行きました。そこで自分の予定（大学のテスト期間や教育実習期間、合宿や大会期間）などを伝え、いつ頃・どんな勉強をして

いくつかを決めました。

【筆記試験対策】

受験する自治体のものを3回繰り返すことにしました。1周目は、自分が間違えたところの解説をノートに写します。その際に、間違えた答えだけを覚えるのはもったいないと思います。筆記試験といっても選択問題なので、他の選択肢にも目をむけてみましょう。わかったつもりでも、なんとなく曖昧にしか覚えていないものもあるでしょう。この解説を写す作業はとても時間がかかり、面倒くさいと感じましたが、自分だけの解説集をつくるつもりで取り組んでみると良いと思います。2周目は、問題を読んで、その答えが頭に浮かぶように復習します。3周目は、答えの解説を声に出して答えられるようになっていたら完璧です。自分で言葉として表現できる力がついて、面接で準備していなかったことを聞かれても対応する力の基礎作りになると思います。1周目を3年生の12月までに、2周目を2月、3周目を4年生の4月までに通して、6～7月頃にもう一冊、総おさらいができるものに取り組めれば上出来、という計画をたてました。また、4年生の春から教職課程センターで開かれていた自主学習グループに入りました。そこで練習問題を解くことで、1人でやり続けていた頃よりも、モチベーションが上がるようになりました。勉強する時は孤独な気分になりがちですが、仲間がいると安心するので、そういったグループに巡り会えて本当に良かったと感じています。

【小論文対策】

4年生の5月頃から始めました。理由は、4月の終わり頃から募集要項が発表されるからです。それを見て、受験する自治体の求める人物像を捉えてから書き始めよう、と考えていました。そして、4年生から教職課程センターで木村先生に指導していただけるようになり、論文を書き始めました。実際に書いてみると、限られた時間・文字数で書くことは思っ

いたよりも難しく感じました。これについてはもっと早く始めておけばよかったと思います。

【面接・集団討論・模擬授業対策】

木村先生の指導のもと、4年生4月から9月の二次試験まで繰り返すことができました。実際に東京都の校長先生を務めていらっしゃる方と面接練習の機会を作っていたことも、とても刺激になりました。

おわりに

限られた時間の中で準備をすすめる上で大切なことは、予定をたてることだと思います。「あれもやらなきゃこれもやらなきゃ」と焦らず、一步一步目標に向けて取り組んでください。これから試験まで、長い期間があります。落ち込むこともあると思いますが、何事にもポジティブに！前向きに！捉え直しててください。試験に臨む皆様方が、全力をだしきれるよう祈っています。(拍手)

教員採用試験体験記

文学部日本文学科4年 S・Y

私は山形県の中学校国語を受験しました。一次試験は50名近く志願者がおり、二次試験に進めたのは10名前後、そして採用されたのは7名という、一次試験の受験者の中からおよそ7分の1の狭き門をくぐり抜け、採用されるに至りました。正直、今でも自分が採用されたという実感がありません。皆さんにとって参考になる話はあまりないかもしれませんが、私の体験を記したいと思います。

受験勉強の開始は2年の後期からで、大学の講義を聞きつつ、参考書を書き写していました。ですがあまり身が入らず、3年の夏まで勉強をしたりしなかったり…といった感じでした。本腰を入れたのは3年の夏ごろから、とにかく教職教養を中心に行いました。私は体育会の剣道部に所属していたので、なかなか勉強の時間を確保できませんでしたが、1日2時間を目標に勉強をしていたと思います。

毎日何度も繰り返し条文を書き写したりするなど、効率的とは言えなかったかもしれませんが、ひたすら教養問題の基礎を固めました。そのような勉強を続けながら年明けには一般教養にも着手しました。適度に問題演習を取り入れながら、知識の定着度や弱点などを見つけ出し、参考書で復習という流れを春先まで続けました。

4年生の4月にはいると、二次試験を見据えて小論文と面接（集団討論と個人面接）に取り組むため、教職課程センターを訪ねました。4年生までに単位をほぼ取得し、体育会も休部したため、1日の学習時間を10～12時間までに増やすことができました。そしてその時期から、問題演習を中心に取り組み、間違えたところを復習していくという流れに変わっていきました。また、センターを訪れたことで多くの教職を目指す仲間に出会い、刺激を受けたことで少し下がっていたモチベーションをあげることができました。この時期になると教育実習などで精神的にも落ち着かず、勉強に手がつかないという状況になると思いますが、しっかりと基礎を作っていれば何も焦ることはないと思います。春先までにはしっかりと知識を定着させていると良いと思われま

す。教員採用試験となると、今まで私たちが経験してきた受験とは雰囲気は異なると思います（少なくとも私はそう感じました）。私の場合は学生のように若い受験者があまりおらず、講師経験者など30～40代ぐらいに見える受験者が非常に多かったです。実際に、集団討論（5人）を行った際は、私を除く全員が講師経験者でした。完全に雰囲気にのまれましたが、開き直って筆記も集団討論も受けました。結局自分の持っているものしか出せないですし、それ以上の力も出せないので、緊張している自分を無理に落ち着かせようとせず、目の前の問題を淡々とこなしました。今振り返ればそれがよかったのかもしれない

ん。例年と異なり、筆記の範囲が大幅に変わり、全然勉強をしていなかった範囲などを出されても冷静に対処できました。二次試験も同様で、面接では肩の力を抜いて、教職課程センターで練習してきたことが自然と出ました。

教員採用試験に合格するためには、自分の苦手なところなどを見つめて、自分には何が足りないのかと常に分析し、そしてそれを克服するために計画を立て直したりして勉強を進めていく主体性が大事だと思います。しっかりと準備をして試験に臨めばかならず結果はついてくると思うので、頑張ってください。（拍手）

激動の1年を経て

文学部英文学科4年 Y・K

私は、今春から夢であった教師として社会に出ます。高校生の時から教師を夢見ていたので、今は非常に楽しみです。しかし、少子化が進む現代では教師は狭き門となってきています。ですので、これから皆さんが教員になることができるよう、教員採用試験に向けて、皆さんにアドバイスをしていきたいと思っています。

まず、1つ目は当然のことですが、勉強です。自分の専門分野はもちろん、教職教養や小論文、一般教養などやることは盛りだくさんです。ですので、なるべく早い時期から余裕をもって勉強していくといいと思います。特に、小論文については自分だけで勉強することは困難なので、教職課程センターの先生や友達に見てもらいながら勉強していきましょう。私は、小論文を初めて書いたとき、お世辞でも上手とは言えないひどいものでしたが、先生や友達にアドバイスをもらい、練習し続けた結果、自分でも自信を持てるまでに成長しました。

そして、2つ目は一緒に頑張れる仲間を見つけることです。教員採用試験の最終的な結

果が出るのは、地方自治体にもよりますが、大体 10 月です。一般企業に就職する人たちと比べ、かなり遅くなってしまいます。なので、1 人で黙々と勉強を続けていると、よほどメンタルの強い人でなければ、不安や焦りが出てきます。そのような時、互いに励ましあい、頑張りあうことのできる友人がいれば大きな支えとなります。幸い、私はそのような人たちに恵まれていたため、最後まで頑張りとおすことができました。教職課程センターにも、教員採用試験のための勉強グループがあると思うので、ぜひ活用してみてください。

最後に、私学の採用について話します。私学は公立の学校と異なり、採用方法・人数・試験日・試験場所などが各私学で異なります。そのため、私学で教員になりたい方は、就職組と同様で、情報が非常に大切になってきます。しかし、各私学の情報を 1 つずつ調べているのではきりがありません。そこで役に立つのが、私学採用のためのウェブサイトです。そのサイトを見ればかなりの数の私学の情報が手に入ります。ですので、サイトに登録しておくのがよいでしょう。また、教職課程センターには私学の採用情報を集めたファイルが置いてあるので、それを見て情報を集めることもできます。私学に就職したい方は必ず情報を多く集めるようにしましょう。

私からは以上です。最後に、教員になりたい人や、教員を考えている人、様々だとは思いますが、教師という仕事は子どもたちと触れ合い、共に成長し、将来の日本を担っていく人材を育てていく職業で、やりがいほどの他の職業にも劣りません。皆さんも一緒に頑張っていきましょう。(拍手)

教職志望者に伝えたいこと

文学部史学科 4 年 K・K

教職志望者に伝えたいことは主に三点あります。

第 1 に、教職を志望することは「覚悟」が必要だということです。一般的に教職志望者の進路決定時期は、民間の就職活動の内定の時期に比べて遅いです。私自身、勤務校が決定した時期は 4 年生の 10 月末でした。次々と周りの友人が進路を決める中、不安になることは度々ありました。私の経験が全てではないですが、こうした状況も起こりうるからこそ、教職を目指す方には、自分なりのぶれない「覚悟」をもって教職の勉強に励んでほしいと思います。

第 2 に、公立（東京都）の試験勉強についてです。この時期（2～3 月）の 3 年生に伝えたいことは、教育実習までが勝負だということです。多くの方が試験前に教育実習を控えていると思います。私も 5 月末から 6 月までが実習期間でした。毎日が大変忙しく、実習前とその期間中に全く勉強できなかったことは、今でも覚えています。また、実習後の勉強も確認程度で終わってしまいました。だからこそ、これから一次試験に臨む方は、実習までに一通りの試験勉強をやり終えたほうが良いと思います。

最後に、法政大学の教職志望者全員を応援しています。

やはり、同じ大学から一人でも多く教員になってほしいと思いますし、将来一緒に教育現場で働きたいとも思っています。「教職への熱意」をもち続け、来年の 4 月に教員になっていることを願っています。(拍手)

専門科目の勉強は、将来自分が授業を担当する生徒のため

文学部史学科 4 年 M・T

私は神奈川県の高校で地歴の教員になります。採用試験に向けて情報を集めたのは 3 年の 9 月頃から、本格的に勉強を始めたのは 12 月頃からです。採用試験は自治体によって配点や出題範囲が異なります。神奈川県の場合、一次試験は一般教養 60、教職教養

40、専門科目 100 の 200 点満点で、二次試験は論作文 40 (実施は一次)、模擬授業と集団討論で 60、個人面接 200 の 300 点満点で行われます。

まず一次試験についてですが、専門科目に時間をかけました。一般教養は配点の割に出題範囲が広いので、取れるところだけをしっかりと取ればよし、という感じでした。教職教養は心理と法規に集中していて、さらにその中でも同じ分野が繰り返し出題されるので、過去問を中心にまとめていきました。そして専門科目についてですが、ここで注意する必要があるのは、採用は「科目」ごとではなく「教科」ごとである、ということです。私の専門は日本史なのですが、「日本史の先生」としてではなく、「地歴科の先生」として採用されるので、世界史や地理の授業も担当することになります。ですから、採用試験でも日本史、世界史、地理の共通問題が 25 点ずつと、選択問題が 25 点の計 100 点満点で出題されます。問題のレベルも大学入試に匹敵するので、採用試験全体でここが最も苦戦するところだと思います。勉強を進めるうえで気をつけておきたいのは、専門科目の勉強は試験に受かるためにやっているのではなく、将来自分が授業を担当する生徒のためにやる、ということです。そう意識することで、ただ知識を暗記するのではなく、どうやって授業しようかな、という視点で取り組めるので、その分内容も定着すると思います。

次に二次試験についてですが、二次の対策を始めるのに「早すぎる」ということはないです。人によっては「一次のことで頭がいっぱいだから、二次はそのあと」かもしれませんが、ちょっと冷酷な話、一次で落ちても二次で落ちても「不合格」という扱いに変わりません。ですからこちらの対策も重要です。論作文を書き始めるにあたって意識すべきなのは、そんなにネタはいらない、ということです。論作文の参考書を見ると、多くのテー

マが並んでいますが、実際には学習指導や生活指導といった大まかなジャンルに対して自分の経験談や教育論を1つか2つ用意しておけば、意外になんとかできます。もちろんそれなりに量を書いて試行錯誤する必要はありますが、あまり難しく考えずに書いてみるといいです。模擬授業に関しては、教育実習を通して指導を受けると思うので、ここでは割愛します。二次試験で最も重要なのが、集団討論と個人面接です。神奈川県の場合、300 点のうち 200 点が個人面接にあてられています。集団討論では、おそらく協調性をみられていると思いますが、これは普段から練習しておくしかありません。教員を目指している仲間とともに話し合う機会をつくりましょう。個人面接の対策をするにあたっては、「何を言えばいいんだろう？」と不安になるかと思いますが、受け答えの内容自体はそこまで重要視されていないような気がします。実際に、面接のマニュアル本には多種多様なことが書かれていて、どれが正解なのかわかりませんし、すべてを真に受ける必要もないです。一次試験に受かる人には優秀な人が多いので、正解を見つけないと落ち着かない人が多いのですが、面接では正解が一つとは限りません。柔軟な考え方をもちましょう。ここで大切な点を一つあげるとすれば、自分本位ではなく面接官の視点で考えてみるということです。面接官はたいてい現役の管理職の先生がやっているそうなので、知り合いの先生に話を聞くことや、書籍などを通して自分の引き出しの数を増やし、教育についての見識を深めておきましょう。(拍手)

「合格者の体験を聞く会」参加が大きく前進するきっかけ

国際文化学部 4 年 R・M

私は、2014 年度の東京都教員採用試験において、中・高共通の英語科で名簿登載となり

ました。以下には、試験に向けてどのような準備をしてきたのか、そして実際の試験はどのような内容であったかを中心に述べていきたいと思ひます。

まず、私が本格的に教員採用試験を意識して活動し始めたのは、大学3年生の夏休みでした。その頃から、採用試験を受験するにあたって実際の教育現場を体験しなくてはと思ひ、都内の中学校で週に1度の自主学習教室でボランティア活動を始めました。それと同時に、独学で試験勉強も始めました。当時は何から手をつければいいのか全く分からず、参考書を買うだけで満足してしまい、あまり勉強に身が入っていませんでした。しかし、ボランティア先で同じ英語科教員を目指す方がおり、その方から試験勉強に関するアドバイスをいただいて、モチベーションを高めて勉強していました。

また、昨年度の教員採用試験合格者のお話を聞く会に参加したことも、私にとって大きく前進するきっかけとなりました。様々な自治体、校種、教科の教員採用試験に合格された先輩方のお話を伺ったことで、「教員になりたい」という思ひがもっと強くなり、より一層勉強に身が入りました。振り返ってみると、その会に参加した時に強くなった教員への憧れがあったおかげで、辛い試験も乗り越えられたのだと思ひます。加えて、いわゆる人物試験に向けては、ボランティアでお世話になっている中学校の校長先生と副校長先生に協力していただきました。苦手だった小論文の添削をはじめ、面接の練習もしていただきました。実際の教員採用試験で採点をする先生方に指導をしていただいたおかげで、本番もあまり緊張せず、自信を持って臨むことができました。

では次に、実際の試験内容についてです。一次試験では教職教養・専門教養・小論文の3つの試験が行われました。教職教養では、当時最新の教育時事問題であったいじめや体

罰、そして教員の服務に関する事項が多く出題されていました。小論文では、それまでと出題傾向が変わり、2題から1題を選択して、70分間で1000字の小論文を書くというものでした。そしてこの一次試験の1か月後に結果発表があり、そのまた2週間後に二次試験がありました。二次試験では、集団面接・個人面接を行い、英語科は別日程で実技試験もありました。

まず集団面接は、5人で1つのグループになり、1つのテーマについて30分間話し合います。私たちのグループでは、「他人を思いやる心や生命を尊重する心を育むための教育」というテーマで話し合いをしました。事前に面接練習をした際に、集団面接では積極性よりも協調性が重視される、というアドバイスをいただいたので、「話すこと」よりも「聞くこと」を大切にすることを心がけていました。個人面接では、大きく分けて個人に関する質問、当日持参した単元指導計画に関する質問、場面指導の3つが行われました。その中でも、私が特に難しいと感じたのは、場面指導です。実際には、「授業中に生徒が携帯電話をしまわなかったら」「地域の方から生徒に関して苦情の電話が入ったら」という場面でどんな指導をするか、という質問でした。矢継ぎ早に質問がくるので、瞬時に判断しなくてはならず、同時に教員としての立場も踏まえて答えなくてはならなかったことで、とても焦っていたことを覚えています。しかし、どんな質問がきても、自分に正直であることだけは心がけました。今の自分をさらけ出し、それを見てもらおう、というおおらかな気持ちで試験に臨みました。

私の周りには教員を目指す仲間がおらず、教員採用試験は孤独とのたたかきでもありました。しかし、「教員になりたい」という憧れを持ち続け、諦めずに努力することの大切さを、この試験を通じて学ぶことができました。これまでの経験を糧に、春からは自信を持つ

て教壇に立ちたいと思います。(拍手)

(3) 多摩：2014年1月31日実施

教員採用試験の経験

社会学部社会学科4年 R・T

私が教員採用試験に向けて勉強を始めたのは、3年の後期からです。社会科の参考書を読むなどしました。しかし、忙しさを理由に、勉強ははかどりませんでした。本格的に始めたのは3年の春休みです。春休み以降は、教育実習期間を除いて、1週間で休み（勉強しない日）を1日か2日作り、それ以外の日は最低5時間、多くて8時間程度勉強しました。

勉強は、教職教養・専門教養・一般教養を4:5:1くらいの割合で行いました。この時は、一次試験に集中しました。教職教養・一般教養については、東京アカデミーが出版している参考書を使い、専門教養は、大学受験向きの参考書を用いました。勉強を始めた当初は、参考書の1ページ目から、隅々まで覚えてやろう！と意気込んでいました。しかし実際に始めてみると、思ったよりも範囲が広いのと、効率の悪さを感じ、1カ月程度でこのスタイルを止めました。次は、受験自治体である茨城県の出題傾向に合わせて的を絞って行うことにしました。共同出版の「教職課程」や、茨城県の過去問の参考書を基に、茨城県で出る可能性のある個所のみを勉強範囲としました。例えば、茨城県は、調べてみると世界史が出題されないとわかりました。そこで、早めに世界史の勉強を止め、その分出题されやすい範囲に勉強時間をまわしました。世界史をまるごと勉強しない、という選択は勇気が要りましたが、結果として、今年も出題されていないし、捨てる判断をしてよかったと思っています。「教職課程」は、教採の情報を知るだけでなく、試験問題集や教育に関する様々なトピックがあり、重宝しました。

その他、共同出版主催の茨城県版教員採用試験対策講座を受講しました。丸1日行う単発の講座を2回受講しました。茨城県の試験の特徴に合わせたものであり、とても役立ちました。

試験勉強は、主に大学の図書館で行っていました。この時、とてもありがたかったのが、友達存在です。私は、「教採自主グループ」というものに参加していました。これは、現代福祉学部の4年生が発端となり今年できた、多摩キャンパスで教員を目指す人が集まったグループです。グループの活動は、教採にむけた試験勉強を共に行ったり、教育問題について話し合ったり等です。春休みは週1回ほど集まりました。この集まりで、教育観を深めることができ、二次試験で役立ちました。このグループで1番得たものは、一緒に頑張る友達ができたことです。多摩キャンパスは教職をとっている人は少なく、まして教採となると限られた人数しかいません。そうした中で、グループで集まり、同じ目標に向かって励ましあいながら頑張れたおかげで、合格できたと思っています。

二次試験については、教採自主グループと、教職課程センターにお世話になりました。一次試験が終わってから、教職課程センターに面接練習をお願いするようになりました。一次試験終了後から二次試験まで、毎週月曜日は岩橋先生、金曜日は篠崎先生に面接練習をお願いしました。面接練習は、本格的に行う日もあれば、ある問題について話を聞いたり、話し合ったりする日もありました。先生方のおかげで、教育観が深まりました。より実践的なこととして、教職課程センター主催の「二次試験対策講座」を受講しました。ここで、初めて本番と同じ形式での面接を行いました。初めての経験で、練習の結果はボロボロでしたが、多くのことを学びました。岩橋先生・篠崎先生との毎週の練習と、講座での失敗のおかげで、本番では成功することができ

ました。

最後に、これから教員採用試験を受けようと思っている人へのメッセージで終わりたいと思います。一番伝えたいのは、試験に向けて一緒に頑張れる友達がいることが、すごく重要！ということです。教採の勉強は孤独です。孤独なうえに、一次試験が近づく6月ごろには、就活組に内定者も増え始め、焦ります。土俵が違うから仕方ないことはわかっているけど、なんとなく雰囲気やられてしまい、焦るし不安になります。そんな時、力となるのが同じ目標に向かう友達です。友達の存在が息抜きにもなるし、モチベーションアップにもなります。ぜひ、共に頑張る友達を見つけてください。教採、頑張ってください！（拍手）

教員採用試験突破までの歩み

現代福祉学部福祉コミュニティ学科4年
N・S

勉強開始まで

一般企業の就活をするか迷いの時期があり、ほかの職業につくことも考えた。三年になったばかりのころ、キャリアセンターで相談をしたり、人と話しているうちに本当に私がしたいことは教師という仕事であるという結論に至った。この迷いの時期があってよかったと今は思う。

10月後半から予備校の通学コースに通い始めた。自分の周りには教採を受ける予定の友人がいなく、心細かったので教職課程センターに相談。そのときまだ勉強会グループが作られていなかったのだからビラを配って仲間を募集。12月頭、初めての顔合わせ。

勉強中

予備校でもまずは教職教養をマスターしたほうがよいと言われていたので10月～12月は教職教養のみ勉強（本腰は入らず・・・）。初めは語句を覚えたり参考書を読んだりしていたが、成果がわからないため問題を解くこ

とにした。

『東京アカデミー出版 教職教養過去問』を何周もすることを目標に問題を解き始めた。分野ごとに分かれているため、今日はこの分野、と決めて行った。ノートを使っていた。問題を解いて間違ったところや、ややこしいところを書いていく。後々このノートがとても役に立った。

12月、予備校で専門教養（社会科）の講義が始まった。問題を解く形式で教採に出やすい問題を厳選していたので役に立った。

1月～3月の春休みはほとんど学校図書館で勉強していた。しかし自分は集中力が長続きするほうではない。教職教養も、専門科目も両方やりたくてたくさんの参考書や問題集を持って行ったが手を付けられたのはいつも半分くらい。朝10時頃～夕方5時頃までやっていたと思う。アルバイトと両立していた。

春休みは教採自主グループでだいたい週に一度集まって討論や勉強をした。2回程水野先生に試験監督官役をしていただいた。

4月から専門教養が遅れていることに気づき、必死で専門教養を追いつかせようとした。大学受験用の参考書や問題集で地理歴史公民をやろうとしたが、時間が足りないと思い、全国の教採の過去問を解くようにした。出ているところはだいたい決まっていると思う。

自分は地理を履修してこなかったため地図帳や優しい地理の参考書を活用して一番力を入れた。また自分の自治体は高校レベルの問題ではなく、中学生レベル+指導法を問うような内容だったため難しいものまで完璧にわかるようにというよりは試験合格のレベルだけ勉強した。

学習指導要領は大学図書館で借りた穴埋め問題集を活用した。また、自治体ごとの防災教育や特別に決められているマニュアルなどがあるので、教育委員会HPを頻りにチェックしていた。

6月後半の教育実習終了後、約3週間は最

後の追い込みとして教職教養は今までの問題集を駆使し、専門教養は基本的なことをもれなく押えるように心がけた。

教職課程センターの利用

先ほども述べたように、勉強会のグループを立ち上げるときにビラを配り、その他これからの活動に関してアドバイスをいただくなどの支援を受けた。

春休みには集団討論の試験監督役をお願いした。

4月からは勉強中に不安になると訪れ、過去問などを借りたり、雑談をしたりした。

教育実習前は指導案と一緒に考えてもらったり、教材を借りたりした。

7月、8月の教採試験の模擬面接を受けた。自分の経験から何を学び、どう生かすのかというのを改めて考えるきっかけとなった。試験官役の先生は会ったことがない方だったため緊張感を持って、本番のような気持ちでできた。

試験後はたまにお邪魔して雑談をしたりした。

一次試験

(願書)「理想とする教師像」などを手書きで書くスペースがあり、水野先生に添削していただいた。提出した願書のコピーはしっかり自分で保存しておくことをお勧めする。

(筆記試験) 冷房設備のない公立中学校で行われたため当日の教室は30度を超えていたと思う。本当に暑かった。当日の試験の難易度は例年並みだったと思うが、特に専門教養は問題数が多く80分で地理・歴史・公民を記述式でA3の解答用紙3枚を答えなければならなかった。時間との闘いだっただ。教職教養・一般教養の手ごたえはあまりなかった。

(個人面接) 一人15分程度だったと思う。面接官が3人いて、それぞれの持ち時間(各5分)と聞く内容が決まっているようだった。志望動機や自分の大学時代の経験を聞く基本的な質問から、最後の面接官は若干圧迫面接

だった。暑さと緊張から終わった瞬間に気が遠くなったのを覚えている。

二次試験

個人面接と集団討論。待ち時間が異常に長かった、本などを持参したほうがよい。

(個人面接) 生徒とのかかわり方や、自分の社会科に対する思いなどを聞かれた。一次試験と同様で3人の面接官だった。

(集団討論)「中学社会科教員として必要な資質を3つ挙げよ」というテーマだった。丁寧な話し方をするのと、他の受験生の意見を受け入れながら自分の意見を言うことが大切である。

後輩へのアドバイス

勉強方法に正解はないと思います。自分の実力を自分自身が知り、限られた時間の中でできることを考えながらやるのが一番の合格への近道だと思います。

最後に私が大切にしている言葉を贈ります。

“努力は必ず報われる”

目標に向かって頑張ってください!!(拍手)

教員採用試験を終えて

スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年

S・I

教員を目指す決意してから結果が出るまでの約一年間、無事採用試験に合格できるか常に不安でした。友人が次々と一般企業に内定をもらって行く中、自分は就職活動をせずに勉強を続けている状況で、取り残されたような気持ちになったこともありました。そんな中、諦めずに勉強を続けられたのは、同じく教員志望の友人のおかげだと思っています。受験する自治体は皆違いましたが、勉強の進行具合や試験の情報交換をしたり、実技の練習に付き合ってもらったり、励まし合ったりと、私の心の支えでした。同じ目標を持った友人が身近にいることは、勉強の指標にもな

りますし、本当に心強いです。切磋琢磨できる仲間を見つけるなど、自身が勉強に集中できる環境を整えることが、まず何より重要であると思います。

私が勉強を本格的に開始したのは、3年生の10月くらい。それまでは、参考書を流し読みする程度でした。もっと早くから勉強を始めるべきだったとも思いましたが、どれだけの時間勉強したかより、自分に合った勉強方法を見つけ、効率よく勉強することが一番大切だと思います。私は『オープンセサミシリーズ』（東京アカデミー）などを使ってある程度内容を頭に入れ、あとは『精選実施問題シリーズ』（共同出版）などを使用して問題をひたすら解き、知識を定着させました。問題を解き、間違えたところを参考書で確認する。これを繰り返し行ったことで、重点的に勉強すべき自分の苦手分野がわかり、効率よく勉強を進められました。他には、長い通学時間を利用して勉強するなど、勉強時間を確保する工夫をしました。置かれている環境は人それぞれなので、その中でどう勉強するかが大切だと思います。

勉強を続けていく中でどうしても不安が解消できず悩んだことがあり、そこで初めて教職課程センターを利用しました。相談すると親身になって話を聞いてくれ、客観的・具体的なアドバイスもいただき、気持ちを切り替えるきっかけになったと感じています。教員になるという夢を改めて人に話したことで、自分の気持ちを整理・再確認できた時間でもあったので、悩んでいる人はもちろん、そうでない人にもぜひ一度利用してほしいです。

教職課程センターでは相談に乗ってもらっただけではなく、一次試験の前に面接対策、二次試験前には模擬授業対策・個人面接対策をしていただきました。面接対策を複数回行ったおかげで、質問に対して焦らず冷静に返答できるようになったと感じます。面接対策はやり過ぎるとよくないとも言いますが、自

分の意見を焦らずに伝えられるようになるまでは、何度も続けた方がいいと思います。伝え方だけではなく、伝える意見が軸のあるぶれないものであることも大事なので、教育問題や場面指導などにおいて、自分の考えを持ち、ある程度まとめておく必要もあります。私は、予想される質問に対して自分の考えをまとめた面接ノートを作り、違った言葉で自分の意見を伝える練習を繰り返し行いました。同じニュアンスの質問でも質問のされ方は異なるので、文章を丸暗記するより効果的ではないかと思います。しかし実際に面接を終えた今、自分を含めた受験者間で、返答内容にはそれほど大差がなかったと感じているので、最終的には「堂々と簡潔に自分の意見を伝える方法」を追求していくべきかと思っています。

採用試験に向けて勉強・準備をしていくと、教員という仕事の大変さや責任の重さを実感し、自分に務まるのか、そして合格できるのか不安になることもあると思います。そんな時も気分転換をしたり、自分が教員になった姿を想像してモチベーションを上げたりしながら、一歩ずつでも夢に向かって前進してほしいです。新卒だと受かりにくい、非常勤講師を経験している人の方が有利だという話もよく聞きます。しかし悲観的にならず、現役だからこそ何をしなければならぬのか、何ができるのか前向きに考え、努力していったほしいと思います。（拍手）

(4) 小金井：2013年12月21日実施

計画的な準備で早めの対策を

理工学部・電気電子工学科4年 H・N

相模原市の教員採用試験に合格しました。教科は中学の数学です。採用試験を受けるにあたって準備したことと、実際の試験について話したいと思います。

自分が試験勉強を始めたのは2年の春休み

からです。自分は1日に何時間も勉強できるタイプではないので早めに準備しました。高校の数学の教科書をまとめるなど、一次試験の数学の勉強を始め、3年になってから問題集をやりました。3年の春休みから過去問に取り組み始めました。4年になってから一般教養と教職教養と課題作文の勉強を始めました。数学以外は試験が近くなってから暗記しようと思ひこの順番になりました。

過去問をやっていく中で相模原市の問題の傾向が分かり、勉強する範囲が割と絞れる印象を持ちました。過去問研究は早めにやっておくと効率が上がります。自分は学校推薦という制度を使ったので、一次試験は課題作文のみで、5月に入ってから課題作文の対策だけに絞ることができました。

課題作文の対策として、小金井キャンパスの教職課程センターで小早川先生に添削等をしていただきました。4月から1週間に1テーマで作文を書き見ていただきました。始めは作文を見てもらうことにすごく抵抗ありましたが、指導をしていただくにつれだんだんと自分の作文が良くなっていくのを感じました。

二次試験の対策は6月下旬頃から始めました。具体的には面接練習・集団討論対策・模擬授業練習をしました。面接練習も小早川先生にいただき、本番を想定して面接をしてもらいました。集団討論は、採用試験と一緒に受ける仲間とともに練習しました。模擬授業の対策は一次試験が終わってから取り組みました。指導案をA4の用紙1枚で作るということを二次試験3週間前に知らされ、急いで作りました。添削は小早川先生にいただき、練習は採用試験で理科を受ける仲間と一緒に行いました。練習で良いアドバイスをもらい、試験3日前に小道具を作って実際に使いました。それが本番で好評であったこともあり、感謝しています。

実際の試験のことを話します。一次試験の

ことはあまり詳しく話せないで、二次試験のことを詳しく述べたいと思います。

まず集団討論は、慣れです。県にもよりますが、相模原市の場合は与えられたテーマに対して、自分の意見をしっかりと伝えて、相手の意見をしっかりと聞くことに重点をおいていると感じました。

模擬授業は、慣れとアイデアです。自分は教育実習が10月だったので、慣れの部分は不安がありました。多くの仲間と一緒にたくさん練習しましょう。アドバイスがたくさんもらえます。アイデアというのは、試験では小道具を使うことが(暗黙的に)必須であると、実際に受けて感じました。なので、題材を選んでやりやすいところをやりましょう。

面接は、どれだけ教師になってからのことを考えているかだと思います。「なぜ教師になりたいのか」から始まり、そのためにどのようなこと(授業や指導)をすれば良いか、その中で〇〇な生徒がいたらどうするかまで考えましょう。また、部活動は何を担当したいか、それ以外の部活動を担当することになったらどうするか、部活動で何を伝えたいかなど、質問は全体的に深くまで突っ込まれます。他にはいじめや体罰など、話題となっている問題について聞かれます。場面指導的なことも聞かれました。他におさえておくところとしては、「生きる力」、その県の教育理念・教師像、学習指導要領、教育振興基本計画などがあります。しっかり対策しましょう。

本番で緊張しないためにも、早めに勉強を始める等のしっかりとした準備と、自分の受ける県についてしっかり調べることが大切だと思います。(拍手)

教員採用試験を受けるみなさんへ

生命科学部・生命機能学科4年 M・T

私は平成26年度・埼玉県教員採用選考試

験（中学理科）に合格しました。ここでは教員採用試験を受けてみて、自分が感じたことや気づいたことをお話しします。来年度以降の教員採用試験を受ける皆さんにとって、少しでも参考になれば嬉しいです。

教員採用試験は人物重視!?

いま学校には様々な問題があり、教員にはその問題に対応できる能力が求められています。そのため、教員採用試験では人物重視の傾向にあるといわれますが、私自身それを強く感じました。例えば埼玉県では今回の試験から小論文試験が導入されたり、個人面接では作文の提出があったりしました。教員採用試験に合格するために、小論文と面接の準備・対策を十分に行いましょう!

大学推薦って知ってる?

教員採用試験には様々な受験方式があります。その中でも忘れられがちなのが大学推薦です。私は大学推薦で埼玉県の採用試験を受け、一次試験が免除になりました。一次試験が免除になったことで気持ちに余裕が持て、小論文や面接に専念することができました。ぜひ皆さんも自分の希望する都道府県の大学推薦がないかチェックしてみてください!

油断は禁物! 小論文!

「小論文なんて作文でしょ?ぶっつけでも何とかやるよね!」なんて考えている人いませんか?私も作文はそれほど苦手ではなかったため、始めは気楽に考えていました。しかし対策を進めるにつれ、時間配分や構成の難しさを実感しました。なにより「教員の立場での主張」をするために、知っておくべき知識や心構えを身につけておくことは非常に大切です。私は実際に時間を計って参考書の例題で小論文を書き、そのいくつかを教職課程センターの先生に添削していただきました。自分ではなかなか気づけない指摘をいただき格段に小論文が書きやすくなったのを覚えています。当日は自分でも満足のいく小論文が、時間をたっぷり残して書き上げることができ

ました。小論文の対策は十分に行うことをお勧めします。

本番で焦らない面接対策

「あなたは県の鳥を知っていますか?」教職課程センターの先生に模擬面接をしていたときに、先生が私にした質問です。皆さん、県のシンボル、答えられますか?面接ではこんな思いもよらない質問がきたりします。もちろん答えられなければ即不合格というものではありませんが、知っておくことで越したことはありません。また、面接では「もっと具体的に」「こんな場合はどうしますか?」「それでもダメならどうしますか?」など、何度も理由や具体案を掘り下げられました。面接対策では自分に「なんで?」と自問して、しっかりと自分の気持ちを確認しましょう。コツは「面接を通して一貫した主張ができること」だと思います。私はどんな質問にも「対話を大切にします」という主張をしました。何か自分の中に1つの芯を見つけられると良いと思います。本番で自分の力を存分に発揮するために、十分な対策をしましょう。では質問です。「あなたはなぜ教員を志望しますか?」

最後に

私が教員採用試験に合格した要因があるとすれば、それは『自信をもって臨んだこと』です。私は試験を受けるまでに、たくさんの友人に「なんだか落ちる気がしないんだよね」と言っていました。このうち半分は自分を追い込むための根拠のない自信です。これだけ言ってしまったら、もう落ちられませんよね(笑)。しかしもう半分は「これだけやったのだから大丈夫!」という自信でした。この自信のおかげで本番は必要以上に緊張せず、堂々と自分をアピールすることができました。ぜひ皆さんもしっかりと準備をして、自信を持って教員採用試験に臨んでください。(拍手)